

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

菅北小	学校
-----	----

児童数	46
-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	^{20m} シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.13	19.44	33.00	39.38	47.43	9.45	136.92	17.33	53.02
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	16.21	16.30	33.40	33.90	30.62	10.35	110.79	9.95	45.87
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、肯定的に回答している児童は男女ともに90%を超えていた。また、男女ともに1週間の総運動量時間が60分未満の児童の割合が男子は、全国（9.8%）・大阪市（11.7%）の平均に対して6.7%となっており、女子は全国（17.3%）・大阪市（20%）の平均に対して9.6%とどちらも運動をしている時間が少ない児童が多く、運動やスポーツに対して好意的で、抵抗感のある児童は少ないことがわかった。体力合計点は、全国・大阪市より合計点では、男子が大阪市の平均より上回っており、全国の平均と同水準であった。一方で、女子は握力が全国・大阪市の平均よりも高かったが、他の種目については平均を大きく下回った。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

今年度は、運動委員会による縄跳び週間やかけ足月間の実施、大縄エリアの設定など、基礎体力向上を目的とした取り組みを計画的に進めてきた。また、全ての運動の土台である体幹を鍛えるため、学校独自の「KTS（菅北・体幹・姿勢）体操」を学期に1回実施し、体を動かす機会の充実を図った。その結果、運動に対して抵抗を感じる児童は少なくなり、運動への意欲の向上が見られた。一方で、運動能力の向上まで十分につなげることができなかった。

課題として、運動やスポーツに対して肯定的に捉えている児童が多い一方で、週当たりの運動時間が少ない児童も一定数存在している点が挙げられる。これは全国および大阪市の平均と比較して突出して多いわけではないが、改善する必要がある。特に女子においては体力合計点が全国・大阪市平均を下回っており、基本的体力の底上げが必要である。今後は、授業改善による運動量の確保に加え、休み時間の活用や家庭との連携を通して、日常的に体を動かす習慣づくりを進め、基礎体力の向上につなげていく。